

心のバリアフリー推進事業

教育委員会
特別支援教育課



事業の概要

特別支援学校の児童生徒が、学校卒業後に居住する地域で、より豊かに生活をするためには、地域での共生が必要。

社会全体が人々の多様な在り方を相互に認め合う力を醸成し、共生社会の実現を図る。

体験型ワークショップ（ダイアログ・イン・ザ・ダーク）の実施を通じた心のバリアフリー推進

ダイアログ・イン・ザ・ダークとは

- ・ 1988年 哲学博士アンドレアス・ハイネッケの発案で、ドイツで誕生
- ・ 参加者はグループを組んで、完全に光を遮断した暗闇空間に入り、暗闇のエキスパートであるアテンド（視覚障害者）のサポートのもと、中を探検し、様々なシーンを体験するイベント。
- ・ 暗闇での体験を通して、視覚以外の様々な感覚の可能性と心地よさに気づき、コミュニケーションの大切さ、人の温かさを思い出す。
- ・ これまで全世界41カ国、130都市以上で開催
全世界で、800万人を超える人が体験

ダイアログ・イン・ザ・ダークの体験

実 施 日 令和2年1月20(月)～1月22日(水)

実施場所 静岡県立沼津視覚特別支援学校

参 加 者 沼津市立第五小学校(児童、保護者、教員)
沼津視覚特別支援学校(児童、保護者、教員)
地域住民、会社経営者
県内特別支援学校教員、
沼津市教育員会、県教育委員会等

220人

照度 0 暗闇での運動会

- ・ 8人ずつのグループ、2グループが同時に暗闇の中へ
- ・ 暗闇の中で、紅白対抗の運動会
玉入れ
列の並び替えゲーム
フォークダンス「ジェンカ」（じゃんけん列車）
- ・ 運動会後は、暗闇の中で、おやつを食べながらお話タイム



アイマスクを着け、
白杖を使って歩行訓練」

暗闇の中では

五感をフルに使い
互いの心、互いの立場を
考え、
思いに気づき、共有
→心の豊かさと優し
さからくる心地よさ

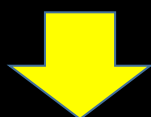
視覚障害者との立場の逆
転現象

→「障害」って？

体験者の心のバリアが下がる

- ・歩いている視覚障害者に自ら声をかけ、手引きをして駅まで案内した（小学生）
- ・視覚障害のあるわが子の行動が理解でき、今までよりも関係性が深まった（保護者）
- ・障害のある人を助けるだけでなく、助け合うことも大切だと思った（小学生）
- ・人のことを信頼できるようになった（小学生）
- ・アテンドの方に手をつないでもらって、やっと歩けた（地域住民）

心のバリアフリー推進



地域住民の誰もが多様な
在り方を認め、豊かに暮
らせる共生社会の醸成

